

モスクワおよび全ロシアの総主教キリルからの降誕際に際してのご挨拶

ロシア正教会の主教、司祭、修道者、諸ハリスチアンへ

親愛なる主教たち、誠実なる司祭・輔祭、敬虔なる修道士・修道女、愛する兄弟姉妹！

私たちの神、救い主、主イイス・ハリストスのご降誕・ご籍身を記憶する光明なる喜びに満ちた降誕祭のご挨拶を申し上げます。

この明るい夜に私たちは天使と共に主のご降誕をほめ歌います。「天使彼等に謂えり、懼るるなかれ、蓋視よ我汝等に大なる喜び、萬民に及ぼんとする者を福音す、今日汝等の為にダウイドの町み於いて、救主即主ハリストス生まれたり。」(ルカ2:10~11) ハリストスの誕生により、原罪によって神から離れた人類は創造者と一つになる可能性を改めて取り戻したのです。

人となった神の子イイスはご自身を遜らせ、苦しい死を意図的に受け入れてくださったのです。「己を卑しくして、死に至るまで順ひ、且十字架の死に至れり」(フィリッピ2:8)

神が籍身してくださったのは仁愛を現すため、そして神の声に耳を傾けるすべての人々を完全な命に導くためです。そのため、主の降誕祭を祝っている私たちは、どんなに複雑な状況でも、神から送られる助けに絶対的に寄り頼むことができます。被造物を見捨てずに、世界に永遠の命への道を切り開いてくださった神は無防備な赤子、世話を必要とする嬰兒ハリストスとして私たちの前に現れました。

聖書に描かれた救世主の幼い姿を常に覚えていなければなりません。ゆりかごの中に眠っている神・嬰兒を思い出しながら、私たちは人間を義に導く神の配剤への望みや強い信仰を身につけます。

人生においてすべての支えがなくなっても、回りは不安定で、信頼できる者がいなくても、私たちは万物を変化させる神の恩寵なる力を信じなければなりません。この大なる力は人間の痛み、苦しみ、そして貧しさを喜び、平和、豊かな霊的な賜物に変えてくださるのです。

救世主の降誕の祭日にはすべての信者がハリストスの教会のゆりかごであるイウデヤの聖地に心を向けます。これは主の誕生や働きが現れた恵まれた地なのです。

しかし、聖なる福音のできごとが実際に起きた場所は現在、多くの試練を迎えています。中東のハリスチアンが長い歴史をもつ聖伝を様々な危険から守らなければいけません。

この光明なる降誕祭の日に、私たちと同じ信仰を分かち合う兄弟姉妹、無限な価値を持つ霊的な宝物の保持者、初代教会の聖伝の継承者のために多くの祈りを神に捧げましょう。「故に若し一つの肢苦しまば、悉くの肢は之と共に苦しみ、若し一つの肢榮えを得ば、悉くの肢は之と共に喜ぶ。」(コリント前書12:26) 使徒パウルのこの言葉は同じ聖堂や教区の信者だけでなく、全世界に広がっている一つの聖なる公なる使徒の正教会の兄弟姉妹にも当てはまります。教会の統一は聖師父から伝わっている信仰や機密における交わりに基づき、苦難において助け合う心、隣人に奉仕する気持ち、お互いの祈りに支えられています。

去る年がロシアを含め多くの地域の人々にとって様々な試練や悲劇をもたらしました。世界の至るところで起きた事故や災害によって私たちの信仰や勇気が試されたと言えます。しかし、現代の人間は物理的な災いより霊的な試練に気をつけなければなりません。現代のハリスチアンにとって最も大きな試練は霊的な領域にあります。これは神から与えられた良心と道徳心を守るための戦いです。

現代の人間は周りからとても強い精神的なプレッシャーを受けています。「人間自身は真実の目盛りである」、「真実は多数である」、「人それぞれが義と悪の定義を決められる」などの概念が私たちに強く押し付けられています。これは唯一の神の真実やそれに基づく義と悪の認識の代わりに道徳的な無関心や無法を広める考え方です。このような概念は人々の霊を滅ぼし、永遠の命を奪ってしまいます。

人間の周りに起きる自然災害は私たちの暮らしの快適さを奪い、生活を大変にしますが、信者の心の平安や霊的な成長に大きな影響を与えません。

自然災害や戦争は生活の外側を壊しますが、規則のない道徳生活が人の良心を破壊し、精神的なダメージをもたらします。道徳的な規則を拒み、自分で義と悪について判断する人間は神・創造者との交わりを失ってしまいます。神から与えられた道徳心や良心を破壊する危険な考え方から霊を守るためには至聖至潔なる生神女や諸聖人の助けが必要です。

生神女や聖人たちは、嬰兒として崇めほめらる「聖にして真実なる主宰」（黙示録6:10）の座の前に立ち、私たちのために主に願い求めるのです。この聖人の祈りによって神は人々には罪と戦う力、「暗闇の諸君、天空に在る凶悪」（エフェス6:12）と戦う力が与えられます。

この世の一時的な成功や繁栄の偽りや幻覚が私たちの罪深い習慣、物欲、宣伝広告の誘惑、娯楽や政治的なスローガンなどに現れます。私たちハリストイアニンは日々の生活において様々な誘惑をきちんと見極める必要があります。罪の危険を知らせる良心の声に常に耳を傾け、自分の行いを福音の戒めと連動させなければいけません。過去のハリストイアニ人と同様に、現代の信者は日々の正しい行いによって義に基づく生活の美しさを表明しながら、道徳的な無関心や利益中心主義と対立する必要があります。

私たちの周りに貧者、病人、孤独の人が多くいます。また、苦しい経済状況の中、出稼ぎのため外国に出かける人も少なくありません。彼らはみんな私たちの隣人であり、世話や支えを必要としています。すべての牧者や信者は教会の社会・伝教活動に積極的に参加しなければいけません。「ハリストスの聖なる光は神、人間、世界の真実の姿を照らす。神から送られるしるしは永遠の命に向かう道を見つける唯一の方法である。」
(ヘルソンの聖イノケンティイ)

今年の降誕祭の暖かさ喜びをハリストスの慰めや助けを望む人たちと分け合ひましょう。私たち誰でも親戚、友人、同僚など周りの人々にヴィフレムムの星の光を届けることができます。

去る年には正教会と様々な国家機関、公的団体、企業などとの交流や協力によって多くの新しいプロジェクトが始まりました。このような教会と社会を結ぶ交流が人々の暮らしに貢献し、社会団結を強め、正しい道徳心に基づく健全な霊的な生活の復帰につながります。

私は今年の牧会訪問の際に、ロシア、ウクライナ、モルドバ、キルギスタンで宝なる教会の統一を実感しながら、教会と社会の共同活動の普及や発展の重要性について話し合いを行いました。この多数の訪問は私にとってとても大切な経験となりました。信仰心の強い民衆との共同祈禱によって多くの信者と交わりができ、教会の中の霊的な絆が強められたと感じています。

大人数の信者が集まる地方の聖堂で行われた奉神礼には信仰や祈りの力が明らかに現れたことを実感しました。この力こそは正教の美しさであり、「和平の繫を以って、神の一つ」の現れです。(エフェス4:3)

心より、主イイスス・ハリストスの降誕祭および新年のご挨拶を申し上げます。

私たちは「望みに循ひて、永遠の命の嗣とならん」（ティト3:7）ために籍身して下さった主の喜びを常に心にあるようお祈り申し上げます。

「願はくは望みを施す神は、汝等を信に由りて凡の喜と平安とに充たさん。汝等が聖神の能によりて望みに豊かならん為なり。」(ロマ15:13)

アミン。

モスクワおよび全ロシアの総主教